

金融審議会第2部会中間報告(平成13年6月) を受けた生命保険会社の取り組み

1. 財務基盤の強化

基金の増額

- ・三井(13年7月:350億円、14年3月:1,000億円)
- ・朝日(13年8月:500億円、14年3月:1,500億円、
14年8月:110億円)
- ・安田(13年9月:300億円)
- ・富国(13年9月:300億円)
- ・明治(14年7月:600億円)
- ・第一(14年8月:800億円)
- ・日本(14年9月:1,500億円)

基金調達が多様化

- ・SPCを用いたスキーム(流動性の付与、投資家の多様化)
- 安田・富国(13年9月)、第一(14年8月)、日本(14年9月)

株式会社化

- ・大同(14年4月)、太陽(15年4月)

配当の弾力化(14年3月府令改正)

- ・配当下限を20%に定款変更(各社)

2. 経営合理化の推進

経営削減努力(過去7年、10社ベース)

- ・内勤職員削減(22.7%)、営業拠点(19.4%)・職員削減
(22.2%)、役員削減(13.9%)、事業費削減(21.1%)

多様な商品開発

- ・ ライフステージに応じた自在型商品の提供
 - アカウト型商品等
- ・ 生存給付型商品の提供
 - 医療終身保険、第三分野商品等
- ・ 変額型商品の提供
 - 変額年金等

合併・業務提携

- ・ 合併
 - GEエジソン - セゾン(14年10月)、東海あんしん - 日動(15年10月予定)、明治 - 安田(16年1月予定)
- ・ 共同持株会社の設立
 - 大同 - 太陽(16年4月予定)
- ・ 生・損間の提携

販売チャネルの改善・多様化

- ・ 営業職員チャネルの改善
 - 契約継続・拡充を重視、中核営業職員の増強
- ・ 銀行窓販(14年10月対象を拡大)
- ・ 営業職員以外のチャネルの多様化
 - ライフプランナー、インターネット等

運用

- ・ ALMの強化
 - リスク性資産の圧縮
 - デュレーションの長期化

3. ディスクロージャーの充実

負債・資本に係るディスクロージャー

- ・ 責任準備金の期間別内訳
- ・ ソルベンシー・マージン比率の内訳(ソルベンシー・マージンの内訳、リスクの内訳)

収益に係るディスクロージャー

- ・ 基礎利益の開示
- ・ 逆ざや定義の統一

代表的な経営指標のわかりやすいディスクロージャー(ディスクロ誌の工夫)

- ・ ディスクロ誌の冒頭で、代表的な経営指標の状況を解説
- ・ 保険用語等を囲み記事で解説

保険商品の内容に係るディスクロージャー

- ・ 変額商品やアカウント型商品等における開示の充実

4 . ガバナンスの強化

総代会の運営に関するディスクロージャー強化

- ・ 総代数及びその数を適正とする考え方
- ・ 総代の選考方法
- ・ 総代の構成
- ・ 議事のインターネットでの公開

契約者懇談会との連携

- ・ 契約者懇談会の開催時期を総代会に先立つ1月～3月に変更
- ・ 契約者懇談会の席上で寄せられた社員の意見等を総代会に報告

相互会社社員の権利義務についての契約時における説明

保険計理人の機能強化

- ・ 実務指針の改定(14年4月)
- ・ 会計監査人との連携強化(将来収支分析で用いた前提についての会計監査人による検証)
- ・ ガバメントアクチュアリー任用による保険計理人との連携強化

株式会社化(再掲)